

列王記

第一と第二 現代の聖書では2つに分かれています
がもともとは1つの書で 前の書であるサムエル記から続く
物語を伝えています ダビデはイスラエルを統一して
王国としました 神は彼の子孫から
国々の上に神の王国を打ち建てる メシアなる王を起し
アブラハムとの約束を実現させる と言いました
列王記はダビデの後に続いた歴代 の王たちについて
記していますがどの王も神との 約束にかなう生き方はできず
むしろイスラエルを滅ぼしたの です
列王記は5つの大きなセクション でできていますが
最初と最後のセクションはいずれ もエルサレムに焦点を当てています
最初はソロモンの統治と神殿建築 最後はエルサレム陥落とバビロン
捕囚で終わります この悲劇的な結末に至るまでを
描いたのが 真ん中の3つのセクションで
イスラエルが2つの敵対する王国 に分裂したこと
神が預言者を送ってイスラエル の腐敗を防ごうとしたこと
そしてイスラエルの罪の結果 捕囚になることが避けられなくなった
ことが記されています 最初の2章は年老いたダビデから
息子ソロモンに 王権が渡される場面を描いています
ダビデからソロモンへの遺言は モーセヨシュア
サムエルが民に残した言葉とよく 似ています
契約の律法を守りイスラエルの神 だけに誠実であれ
という内容です しかしダビデのこの言葉にはうつ
ろな響きがあります というのもこの時ダビデとソロモン
は王位継承を確実にするためいく つかの暗殺を企んでいたからです
これは良いスタートとは言えません ソロモンの絶頂期はイスラエル
を導くために神に知恵を求め ダビデの夢だったイスラエルの
神の神殿建築を成し遂げた時でした ここで物語は中断し神殿の造り
が細部まで語られます トーラーにある幕屋と同じように
金と宝石が用いられ 御使いと果物の木が描かれています
これらはすべてエデンの園をモチーフ にしたものでした
ここは天と地が交わる場所であり 神の臨在が民と共にある場所でした
ところがソロモンは神殿建築を 終えるやいなや
恐ろしい過ちを犯し王国は崩壊 しました
彼は他国と同盟を結ぶために何 百人もの王の娘たちと結婚し

その国々の偶像を持ち込んで イスラエルに偶像礼拝を取り入れたのです ソロモンは莫大な富を蓄積し巨大な軍隊を作り さまざまな建築のために奴隷を酷使しました さてトローラーを読み直し 申命記 17 章に書かれている王の 心得を読むなら ソロモンがそのすべてを破っている ことがわかります 晩年のソロモンは彼の父ダビデ 王より エジプトのファラオに似ていた と言わざるを得ません 次のセクションはソロモンの息子 レハブアムの記事から始まります が彼は父と同じように権力に飢 え乾いた男でした 彼が税金を増やし奴隷たちの負担 を重くしようとした結果 ヤロブアムをリーダーとした北の 部族は反対し王国を離脱し 自分たちで彼に敵対する王国を 建てたのです こうしてダビデの子孫を王とし エルサレムに都を置く南のユダ王国のほかに やがてサマリアを首都とする北の王国のイスラエルができました ヤロブアムは南のユダ王国のソロモンの神殿に対抗して 二つの神殿を建てるとそれぞれに金の子牛像を置き これをイスラエルの神の代理にしました 出エジプト記 32 章の金の子牛の事件との繋がりは明白です このあと物語は北と南の王国を行ったり来たりしながら それぞれの運命をたどっていきます どちらにも約 20 人の王が次々に立てられましたが 著者は一人一人を紹介しながら 幾つかの基準をもって 彼らを評価していきます イスラエルの神だけを礼拝した か それとも他の神々の礼拝を推進 したか また民の偶像礼拝を排除したか そしてダビデのように神との契約に誠実だったか それとも墮落し不正に走ったか これらの基準に照らした結果 北のイスラエル王国には善い王は 20 人のうち一人もいませんでした 南のユダ王国は 20 人のうち 8 人が肯定的に評価されました これはイスラエル歴史において重要な役割を果たしてきた 預言者を紹介するという この書のもう一つの大事な目的 に関わってきます 聖書において預言者は未来を占 う者ではなく イスラエルの神の代弁者です また契約が守られているかどうかを監視し 王や民の偶像礼拝と不正を糾弾する

役割も果たしました 預言者たちはイスラエルは他の
国々の手本であり希望だということ を絶え間なく訴えトラーを守り
悔い改めて神に従いなさいと 呼びかけていました
このセクションに登場する預言 者たちは
それぞれの王の責任を追及する ために遣わされたのです
北王国に遣わされた預言者のうち 際立っているのはエリヤと
その弟子のエリシャです この書の中心部分に登場するエリ
ヤは 荒ら野で質素な暮らしをしていた
男で 彼の宿敵は北王国のアハブ王とその
カナン人の妻イゼベルでした この夫婦は
カナンの偶像であるバアル崇拝 をイスラエル中に広めていました
ここでエリヤが 450 人のバアルの 預言者に
バアルとイスラエルの神のどちら が本当の神か
戦いを挑んだ話が登場します 双方祭壇を築いてそれぞれの神
に祈りますが 火をもって応えたのはイスラエル
の神でした この後アハブは権力を濫用し一
人の男を殺害し 彼が先祖から譲り受けた葡萄畑
を盗みます そこでエリヤは再び彼の不正を
糾弾し彼の家の没落を宣告しました エリヤはその後預言者の働きを
エリシャという若い弟子に譲ります エリシャはエリヤが持っていた
権威の二倍を与えてくれと求め ました
興味深いことにこのセクション では
エリヤの奇跡は 7 回記されていて エリシャの奇跡は 14 回記されています
二人とも優れた預言者で イスラエルの王の偶像礼拝と不正
に立ち向かうという 同じ任務を与えられていました
しかし彼らは イスラエルの背信行為をやめさせる
ことはできなかったのです 次のセクションで北王国は
アハブの家を滅ぼしたエフーという 王が引き起こす
血なまぐさい反乱のために揺る がされます
エフーは最初こそ神の命令によって 行動を起こしたのですが
やがて暴走し始め政治的な暗殺 と謀反を引き起こし
もはやイスラエルは回復不能となり ました
その後クーデターに次ぐクーデター が起こり
いずれの王も偶像を拜み国は不正 でいっぱいになりました
これらのことが第二列王記 17 章 へとつながっていきます
邪悪な大国アッシリアが襲来し 北王国のすべてを奪い去りました

首都サマリアは征服されイスラエル人は捕囚にされ
方々に散らされたのです 17章は鍵となる章です著者は物語
を中断しここで起こったことに預言者的な
考察を加えています 北王国の陥落の原因はイスラエル
とその王たちが偶像を礼拝し 契約に不誠実だったことだと著者
は指摘します 神は彼らが選んで蒔いた種を刈り
取ることを許されたのです そして列王記は最後に孤立した
南王国ユダの物語を伝えます ユダには
アッシリアが攻めて来た時に神に信頼したヒゼキヤのように
立派な王がいました 神殿で失われていたトーラーの
巻物を見つけたヨシヤ王もそう です
彼はトーラーを読んで悔い改め 宗教改革を行い
偶像とカナン³の悪影響を国から 排除しました
しかしユダの背きは大きすぎました この二人の間の王マナセはユダ
史上最悪の王でした エルサレム⁴神殿に偶像礼拝を持ち
込んだだけでなく 子どもをいけにえにすることまで
したのです そこで神は預言者を遣わし
ユダは取り返しのつかないことを したと宣告しました
最後の2章ではバビロン帝国がエルサレム⁵を侵略し神殿を破壊し民とダビデ
の子孫を捕囚にします 神はイスラエルとダビデの子孫
を見捨てたのかという疑問を 読者に抱かせて物語は終わるの
です 最後の段落は捕囚から40年後の
奇妙な出来事を伝えています ダビデの子孫でエルサレムが陥落
していなければ王であったはず の
エホヤキン⁶のことです バビロンの王は彼を牢獄から解放
し残りの生涯を 自分の食卓につかせたというところで
この書は終わるのです めでたしめでたしとはいきません
が 神はダビデの子孫を見捨てたの
ではないという一筋の希望が見え ます
しかし疑問も残ります 神はどのようにしてアブラハム
とダビデと結んだ約束を果たす のか
どのようにして国々に祝福を与 え
メシアなる王を与えてくださる のか
その答えは知恵の書と預言書の中に あります
でも今日はここまで これが列王記です

500 字要約

『列王記第一と第二』は、サムエル記に続く 1 つの書からなる物語で、ダビデがイスラエルを統一し王国を築いた後、神が彼の子孫からメシアとしての王を起し、アブラハムとの約束を実現させると約束したことを伝えています。しかし、歴代の王たちは神との約束に忠実でなく、むしろイスラエルを滅ぼす運命に繋がりました。

この書は 5 つの大きなセクションに分かれており、最初と最後のセクションはエルサレムに焦点を当てています。最初はソロモンの統治と神殿建築、最後はエルサレムの陥落とバビロン捕囚で終わります。中間の 3 つのセクションでは、イスラエルが 2 つの敵対する王国に分裂し、神が預言者を送ってイスラエルの腐敗を防ごうとしましたが、最終的に捕囚は避けられなくなりました。

さらに、ダビデからソロモンへの王位継承が、モーセやヨシュア、サムエルが民に伝えた契約の律法を守り、イスラエルの神だけに忠実であることを要求する内容であるにもかかわらず、陰謀や不正行為が含まれていたことが強調されています。

物語はソロモンの絶頂期から始まり、彼の神殿建築の成功を描写します。しかし、ソロモンは後に偶像礼拝を導入し、国を墮落させました。その後、王国は分裂し、異なる王たちが神との契約に忠実であるかどうかで評価されます。多くの王たちは不正や偶像礼拝を行い、結局、北のイスラエル王国は滅ぼされ、南のユダ王国もバビロン捕囚に遭いました。

最終的に、バビロンの侵略によってエルサレムが陥落し、神殿が破壊され、イスラエル人は捕囚にされました。この物語の結末には疑問が残りますが、神はダビデの子孫を見捨てたわけではなく、希望が残っています。ただし、アブラハムとダビデとの約束を果たす方法やメシアなる王を起す方法については、知恵の書と預言書で語られています。